

情報メディア部門の活動について

情報メディア部門長／工学部 黒川 不二雄

1. 情報メディア部門の概要

情報メディア基盤センターにおける情報法メディア部門の役割は、以下の規則に示されている。

(長崎大学情報メディア基盤センター規則第3条第4項より)

- (1) 教育用計算機システムの構築及び利用に係る技術支援及び研究開発に関すること。
- (2) 学術情報の蓄積及び配信技術に係る技術支援及び研究開発に関すること。

規則にあるとおり、当部門の活動目的は、情報技術を駆使して、教育活動を支援することであり、具体的な活動として、近年目覚ましい進化を遂げている e ラーニングの普及推進を当面の目標としている。e ラーニングについては、長崎大学の中期目標にも頻繁に記載されていることから分かるように、これからの大学における教育活動の根幹となるべきものとして期待されており、それらに関する研究活動や技術支援などは今後大学にとってなくてはならないものとなるであろう。そういった意味で当部門は今後の大学にとって不可欠な教育支援を担う部門として位置づけられる。

2. 平成 19 年度の活動について

上記 1. にあるように、当部門では特に e ラーニングに重点を置いており、具体的には、主に以下の項目について継続的な活動を行っている。

- (1) 教育用 LMS(Learning Management System)の試行運用
- (2) e ラーニングに関する啓発活動 (e ラーニング研究会の企画運営、e ラーニングセミナーの実施)
- (3) 他大学における先行事例等の調査
- (4) 他部局との連携による各種活動
- (5) 学会等への参加

また、定例的に部門会議を開催し (資料 i 参照)、活動内容の確認や修正あるいは、事例等の報告などを行っている。以下、平成 19 年度における具体的活動について述べる。

2.1. 教育用 LMS の試行運用

情報メディア部門では、平成 18 年度に教育用 LMS として、ウェブクラス社製の商用 LMS である「WebClass³」を導入し、平成 19 年度より本格的な試行運用を開始した。

³ <http://www.webclass.jp/>

また、それと同時に e ラーニングの学内導入の突破口としての LMS 普及のため、非定期に WebClass 利用者のための講習会を企画実施した(資料 ii)。WebClass については、必要十分な機能が備わっていることもあり、導入当初から順調に利用登録者数は増加しており、平成 19 年度においては、登録コース数 122、登録者数(教員及び学生) 1550 となっており、20 年度以降さらに増加する傾向にある。

2.2 e ラーニングに関する啓発活動

教育用 LMS の試行運用やその講習会とともに、広く e ラーニングについての知識を広め、利用を促進するための啓発活動として、e ラーニング研究会⁴(資料 iii 参照)の企画運営と e ラーニングセミナー(資料 iv 参照)を実施した。

2.3 他部局との連携による各種活動

情報メディア部門の活動に関係する各種委員会や FD の講師として、協力関係を深めるとともに、今後の学内での教育支援体制についての検討を行った。(資料 v 参照)

2.4 学会等への参加

広く e ラーニングに対する情報を収集し、知見を広めるために関連学会やイベント等に部門関係者(部門員、情報メディアマネージャー等)を派遣した。また、学会において、情報メディア部門での調査結果についての報告も行った。(資料 vi-1 参照)

2.5 他大学における先行事例等の調査

e ラーニングに関する先行事例や独自の取り組み等について、各大学に赴き担当者に直接ヒアリングして調査活動を行った(訪問大学については、資料 vi-2)。これらの情報をもとに、今後の長崎大学における e ラーニングに対する取り組みの方針等を提案していく予定である。

3. 今後の活動方針と大学への貢献

情報メディア部門では、今後の長崎大学に適した(持続可能な) e ラーニングについての調査研究を行うとともに、学内への e ラーニングの普及に向けた活動を継続して行っていく予定である。具体的には、

- 情報メディアマネージャーの増員による e ラーニングに関するコアメンバーの充実
- 学務系システム(シラバス)など、学内の他システムとのシームレスな連携による利便性の向上

などを実施し、当部門の学内で果たすべき役割を遂行していく予定である。

⁴ 学内教職員を対象とした e ラーニングに関する研究や事例紹介を目的とした研究会。研究会資料については、長崎大学機関リポジトリ(<http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/>)を参照

資料 i 部門会議実施概要

回数	開催日	出席人数
第1回	平成19年5月16日 10:50~11:50	12名
第2回	平成19年6月6日 10:50~11:50	12名
第3回	平成19年7月4日 10:50~11:50	12名
第4回	平成19年7月9日 13:00~14:00	14名
第5回	平成19年8月17日 13:00~14:00	12名
第6回	平成19年12月4日 13:30~14:10	11名
第7回	平成20年1月8日 14:30~15:30	12名

資料 ii 講習会開催概要

回数	1	開催日時	平成19年3月19日 13:30~14:30
会場	薬学部 CBT 室		
参加者数	23名		
概要	予備的实施		

回数	2	開催日時	平成19年4月6日 16:00~17:00
会場	情報メディア基盤センター		
参加者数	27名		

回数	3	開催日時	平成19年5月31日 15:00~16:00
会場	情報メディア基盤センター		
参加者数	16名		

回数	4	開催日時	平成19年9月18日 16:00~17:00
会場	情報メディア基盤センター		
参加者数	4名		
概要	各キャンパス向けの1回目。今回は文教キャンパス向けの開催		

回数	5	開催日時	平成19年9月25日 18:00~19:00
会場	原爆後障害医療研究施設		
参加者数	4名		
概要	各キャンパス向けの2回目。今回は坂本キャンパス向けの開催		

**Information Media Center
Annual Report 2008**

回数	6	開催日時	平成 19 年 11 月 2 日 10:30~11:30
会場	情報メディア基盤センター		
参加者数	15 名		
概要	公開授業形式で、通常授業（担当教員：西田）のなかでの WebClass の利用について		

回数	7	開催日時	平成 20 年 3 月 21 日 15:00~17:00
会場	情報メディア基盤センター		
参加者数	4 名		
概要	すでに WebClass を利用しているユーザに対する技術相談形式		

資料 iii eラーニング研究会概要

- eラーニング研究会構成員部局別内訳（平成 19 年 12 月 20 日現在）
 - 情報メディア基盤センター：6 名
 - 大学教育機能開発センター：5 名
 - 工学部：13 名
 - 教育学部：4 名
 - 医学部：3 名
 - 歯学部：1 名
 - 薬学部：3 名
 - 経済学部：2 名
 - 留学生センター：1 名
 - 学術情報部：5 名

回数	1	開催日	平成 19 年 3 月 5 日 15:00~16:00
会場	情報メディア基盤センター 第二端末室		
参加者数	23 名		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ センター長・部門長挨拶、研究会メンバー紹介 ○ 事例紹介：情報リテラシー教育における eラーニング（医歯薬学総合研究科：西田） ○ 他大学の紹介：早稲田大学 e スクール（教育学部：森田） 		

回数	2	開催日	平成 19 年 5 月 31 日 16:30~17:30
会場	情報メディア基盤センター 第二端末室		
参加者数	17 名		

概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ Streamauthor を利用して（経済学部：大倉） ○ WebClass によるコンテンツ共有（医歯薬学総合研究科：西田） ○ eラーニングに関するアンケート（情報メディア基盤センター：丸田）
----	--

回数	3	開催日	平成 19 年 8 月 7 日 16:30～17:30
会場	情報メディア基盤センター 第二端末室		
参加者数	20 名		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ IT 支援による課題探求能力育成のための学生実験 eラーニング教育システム（大学院生産科学研究科：藤本） ○ eラーニングに関する他大学の事例紹介（工学部：藤村） 		

回数	4	開催日	平成 20 年 3 月 5 日 16:00～17:00
会場	情報メディア基盤センター 第二端末室		
参加者数	11 名		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語教育における eラーニング活用のケース（留学生センター：永井） ○ WebClass による予習・復習支援の事例（医歯薬学総合研究科：西田） 		

資料 iv eラーニングセミナー概要

タイトル	「eラーニングは自主性を育てられるのか!？」
開催日時	平成 19 年 11 月 2 日（金） 14:00～17:00
会場	薬学部講義棟 2F 多目的ホール
対象	学内教職員・学生
概要	<p>(1) 「eラーニングと自主性、授業支援から遠隔教育まで ～熊本大学の事例から～」 熊本大学 総合情報基盤センター 教授 中野 裕司 氏</p> <p>(2) 「東京学芸大学における LMS の導入と展開－推進者として、利用者として」 東京学芸大学 教育学部 教育心理学講座 准教授 関口 貴裕 氏</p> <p>(3) 「長崎大学での LMS 試行の現状」 長崎大学 情報メディア基盤センター／経済学部 講師 鈴木 斉 氏</p> <p>(4) 「WebClass を使ってみて」 長崎大学大学院 生産科学研究科 准教授 田中 俊幸 氏</p>

資料 v 学内各種委員会および学内 FD 関連

1. 学内各種委員会

- eラーニングワーキンググループ（黒川、西田）
- 情報基盤専門部会（黒川、西田、丸田）

- 情報セキュリティ専門部会（西田）

2. FD 関連

- 「発表用資料作成のための画像の編集・加工」（第 33 回長崎大学 FD、主催：大学教育機能開発センター）
 - 講師：藤村誠（工学部）、丸田英徳、長崎隆志（情報メディア基盤センター）
- 「レポート課題の出し方と作成支援の実践」（第 33 回長崎大学 FD、主催：大学教育機能開発センター）
 - 講師：西田孝洋（医歯薬学総合研究科）、鈴木斉（経済学部）、丸田英徳、上繁義史、柳生大輔（情報メディア基盤センター）
- 「e ラーニング (LMS) 導入の To do とポイント：初級から上級レベルまで」（平成 19 年度社会開発工学科 FD、主催：工学部社会開発工学科）
 - 講師：黒川不二雄（工学部）、西田孝洋（医歯薬学総合研究科）

資料 vi 学会・他大学調査等

1. 学会・シンポジウム等

A) 口頭発表

- 平成 19 年度情報教育研究集会（大阪）
 - 講演題目：「長崎大学における e ラーニングに対する予備調査」

B) 参加聴講

- 平成 19 年度全国大学 IT 活用教育方法研究発表会（東京）
- 平成 19 年度大学教育・情報戦略大会（東京）
- e-Learning world 2008（東京）
- 平成 19 年度情報教育研究集会（大阪）

2. 他大学調査等

主に各大学において e ラーニングを主導する部署・担当者から直接ヒアリングおよび意見交換を行った。調査のため訪問した大学は以下のとおり。

国立大学法人		私立大学
一橋大学（東京）	熊本大学（熊本）	東京薬科大学（東京）
電気通信大学（東京）	大分大学（大分）	東京電機大学（東京）
東京学芸大学（東京）	金沢大学（金沢）	崇城大学（熊本）